

令和5年度 第1回学校運営協議会 議事録

開催日時 令和5年6月7日 15:30～17:00

開催場所 本校会議室

出席者

学校運営協議会委員

出光 直樹 様 (横浜市立大学 アドミッション課 専門職・学務准教授)
渡邊 洋治 様 (学校法人岩崎学園 キャリア開発部 部長)
矢田 弘 様 (横浜市立富岡東中学校 校長)
大胡 隆文 様 (富岡第2地区連合町内会会長、富岡第2地区社会福祉協議会会長)
鳥越 正昭 様 (社会福祉法人しののめ会 聖星学園 施設長)
金田 京平 様 (金沢区役所 福祉保健センター こども家庭支援課課長)
木村 和夫 様 (横浜金沢産業連絡協議会 専務理事 事務局長)
町田 ひとみ 様 (本校後援会会長)

本校職員

校長、副校長、教頭、黒滝、小柴、遠藤、朝賀、高橋、逆瀬川
総合学科推進グループ 春藤、藤巻、鳶寄

全体会

本年度の本校の学校運営の基本方針について

お渡しした資料集の8ページに、今年度が現在の基本方針（令和2年度から令和5年度）の最終年度となる4年間の集大成が掲載されている。

9ページにはさらに詳しい内容のものが掲載されており、11ページには今年度の各グループが策定した方針、目標が掲載されている。

主な取り組みとして挙げられているのは教育活動ではICTの活用方法、学校管理・学校運営としては働き方改革である。

働き方改革は一度にすべての問題点を解決に向かわせることは難しいため、できることから職員の負担を軽減できるように取り組んでいる。

各グループ総括教諭による業務内容の紹介

総合学科推進グループ

職員研修や生徒の校外での学びなどについて主に担当している。

職員向けの研修としては1upミーティングが挙げられる。職員のICTの利活用推進を目的としたものも実施している。また職員同士で授業のアイデアなどを共有する場ともなっており、授業の更なる改善へとつなげている。

また生徒の活動としては、毎年夏休みに実施されている夏季連携講座が挙げられる。これは県内の他高校や専門学校などにご協力をお願いして行われており、今年度本校では225名の応募があった。今後も学校外での学びも大切にしていきたい。

管理・広報グループ

コロナが落ち着きを見せつつあることから、広報活動の一環として中学生や保護者の方たちに本校へ来校・見学していただき、本校の魅力を発信していくものとした。

13ページに掲載されている学校説明会等広報活動年間計画以外にも、夏休み等を活用し随時対応していきたい。

防災関係としては、本校の中での防災環境を整えることが第一義であるが、今年度は夏休みを利用し近隣地域の方たちにご協力いただきながら実施できるよう検討している。

ガイダンスグループ

昨年度まではコロナの影響もあり、総合学科の特徴をあまり活かせなかった。協力して下さっていた各団体もコロナ前との活動内容が異なってきたため、今年度はどの団体にご協力を賜れるか探している状況である。

また、時代の流れで生徒たちが何に興味を持っているのかを考え対応するべく、岩崎学園さんを始めとした外部団体との新しい活動を試行錯誤しながら実施していきたいと考えている。

カリキュラムグループ

生徒の学習面を中心に担っている。本校は通常の教科以外の総合学科ならではの科目があることが特徴であり、実際に地域へ足を運んでの学習もある。地域の方々にはご支援をいただく場面もあるかと思う。その際にはご協力をお願いしたい。

ICTを活用しての学習も進めており、1人1台端末を利用した学習は今年で2年目となった。教員の研修会なども活用し、ICTをどのようにすれば生徒に対して効果的に活用できるのか研究を続けていきたい。

本校生徒は一般受験での大学進学は少数派であり、そのため基礎学力の充実を図る学習教育が重要と考えられる。そのため、外部の教材や学力テストなどを効果的に用いながらカリキュラムの編成などを考え、生徒が必要とするであろう学力を充実させるため、今後も生徒を支えていきたい。

生活支援グループ

現在、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーには毎週来て頂いている。スクールソーシャルワーカーには生徒の取り巻く環境を包括的に見ていただいている。

今年度から制服の一部変更を行った。従来、スラックスにはネクタイ、スカートにはリボンという組み合わせに限られていたが、スカート、スラックスに関係なくリボンやネクタイを選択できるように変更したところ、スカート姿にネクタイを着用する生徒が多くみられるようになった。

身だしなみについては、以前よりも少しずつ悪くなっている印象があるため、少しずつ直していきたい。

活動支援グループ

コロナの扱いが5類相当へ変わり、生徒が集まることへの決まりごとともコロナ禍の頃とは変わってきた。

生徒一人ひとりが役割を考え活躍してもらえるように、生徒主体となって生徒一人ひとりが楽しい、頑張ったと感じられるように様々な活動を支えていきたい。

質疑応答

委員：服装の指導としてルールメイキングの手法を用いて生徒自身に考えさせることもアリではないか。

ガイダンスの授業でキャリアプログラムを兼ねた取り組みをし、生徒主体で考えさせてみるのもよいのではないか。

委員：学校運営基本方針が4年間の集大成とのことだが、それぞれのグループ目標やその達成度についてはどのように共有されているのか。

職員：年度末近くにすべてのグループで達成度を確認した上で1度集約し、職員全員へ目標到達度を示すものを配布、周知し、情報の共有を行っている。

委員：本校の防災の計画としては、いつ、誰を想定して策定しているのか。

職員：現状は生徒主体の防災訓練が主であり、年に2回授業中に発災したことを想定して実施している。

委員：防災備蓄品などは在学生徒のみが対象なのか。

職員：生徒のみが対象であり、備蓄品は生徒一人あたり3日分を用意している。地域の方までは手が回っていない。

まとめ（委員より）

今回運営協議会が平日開催されたことは、生徒の実際の活動も見ることができとても良かったと思っている。

こちらから提案したものが採用されたことは大変喜ばしいことである。本年度も学校と協力しながら活動していきたい。

各部会

学校評価・キャリア部会

令和5年度について

職員：学校としては生徒の進路指導についての課題がある。生徒も指定校推薦を第一に進路を探すケースが多く見受けられる。

昨年度から外部の模擬試験を導入しており、その結果を見ていくと、指定校推薦枠を頂戴している学校の中から進路を選ぶより、もより良い進路選択ができる可能性のある生徒もいる。

全体の雰囲気（推薦で早く進路を決めてしまいたい）に飲まれてしまい、指定校推薦で進学できる学校を選択してしまっているように思える。

今年度からは生徒が現状の学力で入学できる学校から生徒自身が本当は行きたいと思っている学校を選択できるように方針を変えていきたい。

委員：金総で一般選抜入試を使って入学することはあまり現実的のようには思えない。そのため総合型選抜試験にチャレンジしてほしいと考える。

指定校推薦を受験すると決める前に総合型選抜試験に挑戦するためには、英語の資格などはっきりとした実力を求めるものも必要と考える。総合型選抜試験で評価される資格等の検定試験をもっと受験させていくべきではないか。

現状の金総に合う支援としては、指定校推薦が決まった生徒を集め模擬面接会を行うというのも良いのではないか。

これを行うことにより、他の生徒の想いや考えを知ることができるため、自らもっと真剣に進路選択に向き合おうと思ってくれる生徒を増やせたらいい。

下級生が3年生の話を聞ける機会も作り、自分が受験する学校への志望理由をプレゼンさせるようにしてはどうか。下級生で進学を考えている生徒にとっては、先輩の生の声を聞けるので参考になり、自らの進路選択に責任感を持てるようになるのではないか。

公募制推薦試験や総合型選抜試験で入学するために、志望理由を考えることなどを産業社会と人間などの授業で取り入れていっても良いのではないか。

集団面接の練習で他の人の志望理由を聞いて刺激を受けさせ、お互いの力を向上させるために生徒同士でフィードバックなどを行わせ、志望理由プレゼンのコンテストを行うことで、仮にコンテストでの発表がうまく行かなかったとしても、失敗からの学びは大きく、生徒自らの飛躍を図ることができるのではないか。

職員：専門学校だけでなく大学進学などをしっかりと考えているのかということ、進学できるところから選んでしまっているため、志望理由がしっかりとしていない生徒が多いのが現状だと思う。

委員：進学先の専門学校でも明確な進路への目標が見いだせない生徒に対し、OB、OGの活躍を情報発信するようにし、縦のつながりを作ってあげたらよいと思う。

職員：現在の3年生で集団模擬面接については前向きに検討していきたい。

地域連携・防災部会

令和5年度について

職員：今年度も本校と後援会、近隣地域とで連携していきたいと考えている。

コロナがひと段落というところでもあるので、今まで出来なかったことが出来るようになってきた。ここではお互い意見を出し合っていたきたい。

職員：今年度の翔総祭（文化祭）は10月28日から2日間実施予定で、1日目は校内公開のみ、2日目は外部へも公開しようと考えている。

本年体育館が耐震工事で使えなくなるため、昨年まで体育館で行っていた催し物を今年は体育館で実施出来ない。その代わりに校庭にステージを建て、本来体育館で行われる予定の催し物を代替して行いたいと考えている。校庭に建てるステージでは軽音楽部、吹奏楽部、ダンス部などの使用を予想しているが、近隣地域のみなさまへ騒音等でご迷惑をお掛けしてしまうことが考えられる。近隣への配慮をしながら実施したい。

委員：体育館の工事はいつからか。

職員：体育館の工事は7月中旬から来年1月を予定している。

職員：現状体育館を使用している部活動も他の施設を借りて活動しなければならない。

職員：地域連携としては、本校の夏休み中に聖星学園と避難訓練を実施できれば良いと考えている。以前（コロナ前）、近隣の保育園とも実施したことがある。

職員：後援会からは何か周知したいことはあるか。

委員：翔総祭に近隣地域の方々を呼べるように周知したい。

委員：文化祭で体育館が使えず校庭で催し物を実施することについては、騒音では文句は出ないのではないかと思う。

また、文化祭にせよ他の催しにせよ、なるべく早い周知をお願いしたい。以前吹奏楽部から出演依頼を受けたことがあったが、いつも期限ギリギリで、それではこちらも対応に苦慮してしまう。

少なくとも、開催日の1か月前までには周知するためのチラシ等を準備してもらわないと、町内会の会議に間に合わず、周知が難しくなる。

私に関わる地域ではあまり文句は出ないかと思われるが、シーサイドタウンとの関わりには注意した方がよい。うるさい方が多い印象だ。

我々が参加している富岡八幡宮例大祭で合図の音だけの花火を打ち上げた際、それでさえ苦情が出る状況だ。

委員：区の地域担当課長を通して、シーサイドタウン町内会との繋がりを持ち、連絡をしたほうが良い。地域担当課長には連絡をしておく。

委員：先ほどの避難訓練について、日程はどのあたりが良いか。

職員：8月12日から14日が閉庁日であるので、それ以外の日程でお願いしたい。8月7日から、また8月15日からであれば今のところ調整可能である。日程や実施する内容については、校長と相談の上、ご相談したいと考えている。

委員：防災については、生徒に災害に遭遇したら、被災したら自分がどう行動するかを考えさせることが必要ではないか。

災害時には誰かが助けてくれる、指示を出してくれるという甘い考えを持った方が多い。万が一の時に自分がどう行動するのかを考えさせねばならないと思う。

また、本校は防災拠点には指定されていないが、災害時には近隣住民が避難してくる可能性もあるのではないか。それら想定外のことが起きたときにも対応できるような計画を策定すべきではないのか、と思う。

委員：区からは、コロナ前に実施されていた祭りを復活させる方針である。10月に実施予定の「いきいきフェスタ」、8月には花火大会も復活させる予定である。

11月には「産業ピアフェスタ」も実施予定で、過去本校吹奏楽部が演奏したと記憶している。ダンス部の演技を地域の方に披露できる機会を提供できるかもしれない。

これについては7月末までに連絡をくれれば調整可能かと思われる。

委員：防災については、生徒に『気付き』を学んでほしい。

また、文化祭時の花火の煙、臭気、音などへの近隣住民等周囲への配慮は絶対に必要と思う。

体育館が使えなくなることについて、当方でも体育館を所有しているため、有料にはなるが貸し出すことは可能である。

職員：是非、主に土日に使用させてほしい。

委員：土日はかなり前から予約が入っていることが多く、利用率が高くなっているのが現状である。

職員：今後とも、お互い連絡を密にし、連携した催し等を実施していければと思う。その際にはご協力を賜れると幸いである。